

2022年度社会・環境部会賞受賞記念講演（2）

原子力（学会）と哲学

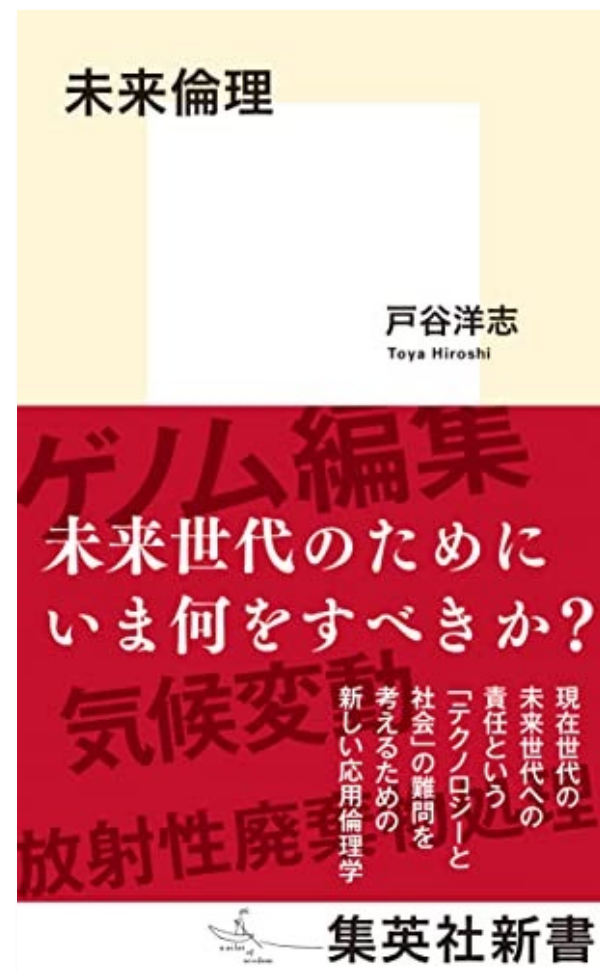
菅原慎悦（関西大学）

日本原子力学会2023年秋の大会

2023/09/08@名古屋大学

「つまみ食い」のコメント

- 「高級焼き肉のタレ」ではなく「調味料の使い方」の解説



複数性

- アーレントの核攻撃批判
 - **複数性**：自分以外の見方や意見に出会うことの根源的重要性
 - 核攻撃は「人間同士の関係性から創られる活動と言論の世界」を破壊
- 原子力の「平和利用」について展開してみると…
 - 原発事故：上記のような意味での「世界」を破壊する
 - 平時：原子力利用や安全をめぐる公論が形成されにくい状況
 - 原子力は、公的領域における人間の自由を奪い、公共性を掘り崩す？
- 原子力側からの見方
 - **原子力ほど「複数の遠近法＝観点」から語られてきた技術は他にない**
 - Cf. 「社会的受容」や「リスク認知」の議論の端緒
 - **観点の複数性の担保と、公共性に関かれた議論との間をつなぐには？**

想像力

- 7人の哲学者に共通する態度
 - 「原子力の脅威と対峙するために、自然科学的な思考の有限性を明らかにし、それに対するオルタナティブな知を模索する」 (p.107)
 - 計算的思考の限界を乗り越えるための「**想像力**」の重要性
- 人文的教養の重要性と、その無目的性
 - アンダース、ヨナス、デュピュイ：**SFや古典を読むこと**を推奨
 - 「想像力や事故対応力を養うために〇〇を読め」という考え方の限界？
 - 1F・吉田所長の胆力と『正法眼蔵』
 - 日常業務や職責とは離れた生活上の実践によって**具わってしまっている力**が、**振り返ってみれば**重要な役割を果たした
 - 技術者の「社会リテラシー」の議論に、**無目的性**を埋め込むことは可能か？

超越と同行

- 「**超越**」的な技術批判
 - ハイデガー、ヤスパーズ：技術を「**対象**」と捉えて本質主義的な批判
 - 「技術利用からの撤退」しかない？
- ポスト現象学：技術への「**同行**」
 - 人間と世界を「**媒介**」するものとしての技術、**人間と技術の関係の内側から**倫理や道徳を議論
 - 哲学としての批判性を発揮できない、原発は同行自体の是非を問うべき、等の批判もあるが…
 - 技術実践の内側に深く踏み込んで初めて可能になる批判や、別様可能性の構想もあるはず
 - 内側からの批判の可能性、超越／同行を超えた新たな批判性のあり方？（Cf. デュピュイ）

